

日本メダカ協会公式ガイドライン

# 改良メダカ 品種分類マニュアル

第4版(2024年) 追加項目

日本メダカ協会

2024年4月1日

## 改良メダカ形質一覧表

形質名		補足							
		形質事項				共通補足			
体色 (単色)	茶							ヒレ美	
	黄							腹膜青	
	白	クリーム(シルキー)						体内黒	
	青	パープルブルー	パールブルー	緑	ヒレ黄(シルバー)			ヒレ光	
	ブラック	ヒレ黄(ブラック黄金)						一周光	
	黄金							背地反応なし	
	琥珀							カガミ	
	朱赤							ヒゲ	
	オレンジ							頂点眼	
	ピンク							モザイクバンダ	
透明鱗	透明鱗	片ホホ	ホホ無し				シースルー		
	半透明鱗(オーロラ)							側面光	
目の変化	色	アルビノ	チェンジカラー (ブドウ目)						
		バンダ							
		ルビーアイ	チェンジカラー (ブドウ目)						
	形	スモールアイ							
		出目							
		目前							
		ビッグアイ							
		水泡眼							
アースアイ	青	銀							
プラチナアイ									
虹色素胞	ラメ	多色	白	青					
	体外光	光の色	白	青	金	緑	二色		
		光の位置	頭光	横光					
		光の形	鱗光	スポットラメ					
	体内光	光の色	青白	緑	オレンジ	多色	青		
		光の位置	口内光						
	全身体内光	多色							
	腹膜光	青	オレンジ	多色					
	ヒレライン								
柄	斑(錦)	斑 (背地反応なし)							
	ブラックリム								
ヒレ変化	サムライ								
	菱尾								
	マルコ(背ビレ無し)								
	メラー								
	スワロー								
	ヒレ長								
	ロングフィン								
	ワイドフィン								
	リアルロングフィン								
	モルフォ								
フサヒレ									
ナローフィン									
体型	ヒカリ	強光	銀帯						
	ダルマ	半ダルマ							
	ヒカリダルマ	強光	銀帯						

珍種	メラノーマ
	鉄仮面
	獅子頭

令和3年4月改定箇所  
令和4年4月改定箇所  
令和5年3月改定箇所  
令和6年4月改定箇所

## 目の変化

### アースアイ



#### ◆由来・概要

眼球の瞳孔(黒目)が青色や銀色になる形質です。角膜にグアニンが発現することで青色や銀色になります。

#### ◆特徴

瞳孔が青色や銀色に見える

#### ◆形質補足



#### アースアイ (青)

瞳孔に青色が発現しているアースアイです。ブルーアイとも呼称されています。

#### アースアイ (銀)

瞳孔に銀色が発現しているアースアイです。

#### ◆類似した形質

なし

## プラチナアイ



### ◆由来・概要

角膜の部分的にラメのような光が発現する形質です。

### ◆特徴

角膜にラメのような光が入る。

### ◆形質補足

なし

### ◆類似した形質

なし

## 虹色素胞

### 体内光（たいないこう）



### ◆由来・概要

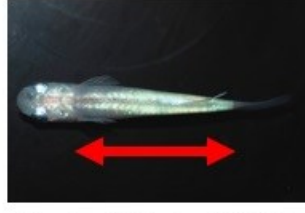
2008年の第2回日本めだか品評会にて、戸松具視氏により出品された体内に青白い光が発現するメダカです。蛍光灯の電気を切った後の青白い光に似た色を発しています。光の層が横向きの板状に発現しているため、上見しか光を確認することができず、横から見た場合はほとんど確認することができません。また、作出された当初は、背ビレ付近を起点に体長の半分付近までしか光が発現しませんでした。2014年に胸ビレ付近まで光る体内光が作出されました。今までの体内光とは別に、グレードの高い品種として「スーパー体内光」と呼ばれています。

体内光とは別に、グレードの高い品種として「スーパー体内光」と呼ばれています。

## 体内光が発現する起点



体内光は背ビレ付近から光が発現する。多くの体内光は体長の半分しか発現しない



胸ビレ付近まで光が発現している個体。体内光の中でもグレードの高い個体としてスーパー体内光と呼ばれる

## 体外光体内光



体外光と体内光は同時に発現することができる

### ◆特徴

体の中に、青白い光が発現する。

### ◆形質補足（光の色）

体内光の色は青白いと表現されていますが、個体の有する色素胞により体外光の色にバリエーションが生まれたため、形質補足として分類しました。

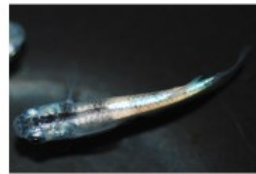
## 体内光の色の種類



青白



緑



オレンジ



多色



青

**体内光（青白）** 青白い色の体内光です。一般的に体内光と言われるのはこの色です。

白体色、クリーム体色に発現しやすい光の色です。

**体内光（緑）** 緑色の体内光です。青体色（緑）に発現しやすい光の色です。

**体内光（オレンジ）** オレンジ色の体内光です。体内光を有する個体を刺激すると、光の色がオレンジ色になる個体がありますが、ここに分類されるのは、常時オレンジ色の光をしている個体です。

**体内光（多色）** 光の色が多色になる体内光です。体内光の色は基本的に一色ですが、稀に2色以上の光を有する個体があります。

**体内光（青）** 青色の体内光です。青体色の体内光に発現しやすい光の色です。

### ◆形質補足（光の位置）



#### 体内光（口内光）

2023年に寺井令直氏によって作出された、口内に体内光が発現するメダカです。

目から口先に範囲に口内に体内光が発現します。

## ヒレ美 (ひれび)



### ◆由来・概要

ヒレに鮮やかな色が発現するメダカです。メダカのヒレには色があり、各ヒレによって色の発現しやすい位置が決まっています。尾ヒレはヒレの縁（ヒカリ体型は中心も含む）、背ヒレとしりヒレは付け根付近、胸ヒレは色が発現しにくく、腹ヒレは色が全体的に発現し婚姻色がやすい、などが挙げられます。その色をより鮮やかに表現し、個体の一つの特徴として認識できるレベルに達したのがヒレ美です。

### ヒレ全体に色が発現するヒレ美個体



ヒレの中まで鮮やかな色がある

### 通常と発現の仕方が異なるヒレ美個体



色の発現する位置が均等ではなくまばら

### 体とヒレの色がハッキリと分かれているヒレ美個体



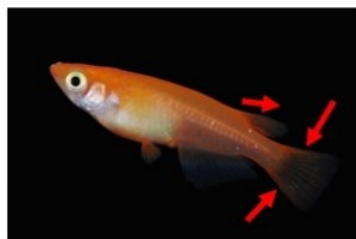
体は色が抜けているがヒレにはしっかりと色が発現している

### ヒレが伸長するヒレ美個体



ヒレの伸長した部分は色が発現することが多い

### ヒレ美ではない普通鱗



### 琥珀の場合



・ヒレ美を判断する明確な基準はありませんが、①体色以上にヒレの色が鮮やかで目立つ②通常では色が発現しにくい位置に色が発現する、などがヒレ美に該当します。どちらも普通鱗性では発現しにくい特徴で、ヒレ美は基本的に透明鱗性の品種に発現することが多いです。

・ヒレ美は、尾ヒレではヒレの縁に色が発現します。背ヒレではヒレの付け根からヒレの先に向けて色が発現しやすい傾向があります。

・琥珀体色は元々ヒレの色がオレンジ色になる特徴があります。そのため、オレンジのヒレをしているだけではヒレ美とはいえません。透明鱗の遺伝子により、尾ヒレがビビットなオレンジ色を発現した場合、琥珀体色もヒレ美となります。体色とヒレの色が異なる品種、ブラック体色（ヒレ黄）や青体色（ヒレ黄）なども同様です。



ヒレに白色素胞が発現することで白いヒレを表現したメダカです。透明鱗のヒレ美とは異なる半透明鱗のヒレ美表現であり、「令和」と呼称されています。

#### ◆特徴

- ・ヒレに鮮やかな色が発現する

#### ◆類似した形質

- ・なし

### 側面光（そくめんこう）



#### ◆由来・概要

体表の側面にグアニンが発現する形質です。アースアイ品種に発現することが多い傾向があります。

#### ◆特徴

体表の側面にグアニンが発現して光る。

#### ◆類似した形質

なし

## 日本メダカ協会公式ガイドライン 改良メダカ 品種分類マニュアル

2020年4月1日 初版

2022年4月1日 第2版

2023年3月1日 第3版

2024年4月1日 第4版

### 編集者

日本メダカ協会 品種分類部会

大場貴保, 和田敏拓, 高田紘章, 大場健司, 大場秀幸, 福永恵, 寺井道典, 齋藤優作

### 日本メダカ協会事務局

Address: 〒753-0047 山口県山口市道場門前 2-1-7 (めだか屋ごっこ内)

Tel 080-1982-9952 (日本メダカ協会事務局直通)

Mail: [jma.medaka@gmail.com](mailto:jma.medaka@gmail.com)

HP: <https://jma-medaka.com/>

### 著作権について

本マニュアルに記載の文章・図表及び写真の著作権は日本メダカ協会に帰属します。

私的かつ非商業目的で使用する場合、その他著作権法により認められる場合を除き、事前に日本メダカ協会の書面による許可を受けずに、複製、公衆送信、改変、切除、ウェブサイトへの転載等の行為は著作権法により禁止されています。

### 免責事項

日本メダカ協会（以下、当協会）は、本マニュアルの作成にあたって細心の注意を払っておりますが、その内容に誤りや欠陥があった場合に、いかなる保証もいたしません。本マニュアルをご利用いただいたことにより生じた損害につきまして、当協会は一切責任を負いません。また、本マニュアルの情報は、予告なく変更または削除する場合がありますので、あらかじめご了承ください。



Copyright © 2024 Japan Medaka Association All Right Reserved.